

平成28年度「キャリア教育・就労支援等の充実事業」成果報告書

受託団体名	栃木県
-------	-----

I 概要

1 モデル地域の概要

①モデル地域の種類 ※I型、II型、III型のいずれかに○を付してください。

	I型（連携型：特別支援学校高等部及び高等学校の連携）
○	II型（単独型：特別支援学校高等部のみ）
	III型（単独型：高等学校のみ）

②モデル校の一覧

設置者	学校種	課程又は障害種	学校名（ふりがなを付すこと）
栃木県	特別支援学校	知的障害	とちぎけんりつとくべつしえんがっこうつのみやおぼこうとうがくえん 栃木県立特別支援学校宇都宮青葉高等学園
栃木県	特別支援学校	知的障害	とちぎけんりつこくぶんじとくべつしえんがっこう 栃木県立国分寺特別支援学校
栃木県	特別支援学校	知的障害	とちぎけんりつとちぎとくべつしえんがっこう 栃木県立栃木特別支援学校
栃木県	特別支援学校	知的障害	とちぎけんりつなすとくべつしえんがっこう 栃木県立那須特別支援学校

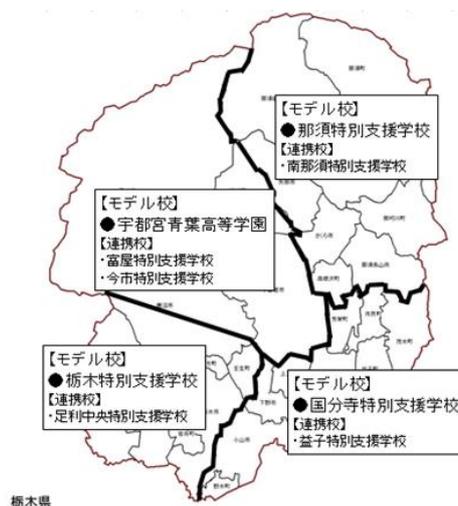
2 研究課題

モデル校を核として、特別支援学校（知的障害）高等部各校が連携した、就労支援体制の構築を図る。併せて、高等学校への相談支援体制を整える。

3 研究の概要図

栃木県全域を4つの地域に分け、それぞれの地域の特別支援学校（知的障害）1校をモデル校に設定し、地域内のその他の特別支援学校（知的障害）を連携校とする（図1）。モデル校のうち宇都宮青葉高等学園及び国分寺特別支援学校の2校に、企業や就労支援事業所等での勤務経験のある者等を就労支援コーディネーターとして配置し、進路指導主事と連携しながら、新たな実習・就職先企業の開拓を行う。併せて、モデル校では就労支援体制の構築や企業等への啓発のため、関係機関との連携会議及び企業向けセミナーを連携校の協力の下に実施する。また、モデル校及び連携校が地域内の高等学校に対するセンター的機能を発揮し、特別支援学校が有する障害のある生徒に関する就職指導のノウハウを提供することにより、高等学校に在籍する障害のある生徒の進路指導の充実を図る。

図1. モデル地域とモデル校及び連携校



## 4 研究の成果

就労支援コーディネーターによる実習・就職先企業開拓は、開拓した企業に関する情報を各校の進路指導担当に提供することで、成果を県全体で共有した。実習承諾を得た企業数は、全体で81社であった。

就労支援連携会議（各モデル校で2回実施）は、地域内の労働・福祉関係機関、モデル校卒業者を雇用する企業及び特別支援学校（知的障害）の職員を構成メンバーとし、モデル校での職業教育の取組や企業での継続雇用に向けた支援体制等についての意見交換を行った。就労支援や職場定着支援における各機関の役割を確認し、在学中から卒業後の職場定着まで途切れることのない支援体制の構築を進めることができた。

企業向けセミナーは、企業に対して障害者雇用についての理解啓発を図ることをねらいとして、モデル校及び連携校の計8校において実施した。特別支援学校における職業教育・就労支援についての説明、授業参観、企業担当者による障害者雇用についての事例発表、関係機関の担当者による企業支援の取組や助成制度についての説明などを行った。公共職業安定所に協力いただき参加を呼びかけた結果、障害者雇用を今後進めることが期待される企業を中心に、8校で計220人の参加を得ることができた。

障害がある生徒の就職指導に関する高等学校への支援は、関係機関の紹介や連携の方法についての情報提供、支援に関する助言を行った。

## 5 課題と今後の方策

本県では、軽度の知的障害がある生徒を対象とする高等特別支援学校「県立特別支援学校宇都宮青葉高等学園」が平成28年4月に開校した。同校は県内全域を通学圏としており、他の特別支援学校と通学圏が重なることから、企業開拓においては学校間の連携が必要不可欠になる。また、同校が本県の職業教育推進校としての役割を担うことで、他の特別支援学校との連携による職業教育や就労支援の更なる充実が期待される。そこで、同校を含む特別支援学校3校に就労支援コーディネーターを配置して引き続き企業への個別訪問を行い、同校が企業に関する情報の集約・発信等を行うなど、学校間で連携して実習受入れ承諾企業の拡大を図るとともに、特別支援学校各校において、企業向けセミナーなどの啓発的な取組を開催することなどにより、就労支援の充実を図っていく。

切れ目のない支援体制の確立を目指していくためには、関係機関との連携を引き続き充実させていく必要がある。そこで、特別支援学校各校において就労支援連携会議を開催することとし、各学校の実情に応じた取組を行っていく。

高等学校への相談支援については、宇都宮青葉高等学園他各校がセンター的機能を発揮して、今後も支援を行っていく。